

# 地域資源創成学部 地域を創るリーダーになろう！

Faculty of Regional Innovation

～自分と地域の将来のために、今、ここでマネジメント力を磨く～

「企画力」「実践力」の育成を図り、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目指します。



地域資源創成学部長

桑野 斉

我が国では人口減少・少子高齢化を背景にさまざまな課題が山積し、持続可能なまちづくりが困難になった地域が増大しています。このため、地域資源の積極的な活用を通じ、地域課題の有効な解決策を創出していくことが極めて重要なテーマになってきています。「地域資源創成学」は、こうしたテーマを総合的・学際的に研究する新たな学術分野であり、本学部では、地域が抱えるさまざまな課題解決に向け、新たなソリューションやイノベーションに関する研究を積極的に進めています。

この「地域資源創成学」には、異分野を融合し、学術と実務の垣根をこえた視点や取組が必要になります。このため本学部では、宮崎県内の地域社会や地方自治体と連携し、地域資源や地域課題の実態に即したダイナミックな教育プログラムを提供しています。地方創生や地域課題解決に関心・意欲・熱意をもった方に入学していただき、将来の地域を支える人材として、高い専門的能力を培っていただくことを期待しています。

## ■ 地域資源創成学部 各コース

2年後学期から、以下の3つのコースに分かれ、それぞれのカリキュラムに沿った教育が行われます。

- 企業マネジメントコース
- 地域産業創出コース
- 地域創造コース

※各コースの説明は60ページ





今日、我が国の地域社会は、少子高齢化・人口減少、グローバル化、さらには地方分権の進展と厳しい財政状況等様々な課題に直面しています。特に、少子高齢化が加速度的に進行する中山間地域を抱え、後継者不足や若者の県外流出、グローバル化に伴う産業間競争の激化により地域社会経済全体が衰退傾向にある宮崎県などの地域では、持続可能な地域創成と地域産業の振興に向け、地域資源を経済的価値に転換できる仕組みや、国内外市場の開拓やリネージュ構築、地域活動の有機的連結とその活性化を実現できる人材の存在が強く望まれています。

地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合のカリキュラムを構築するとともに、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々と一体となった協働教育を導入しています。

### ■入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

地域資源創成学部では、地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目標としています。

#### (求める学生像)

地域資源創成学部では地域振興に対して熱意(学問への関心)を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力(知識・技能)を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材を求めています。

### ■卒業認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

地域資源創成学部は、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、以下の素養を身につけ、かつ、卒業研究の審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学士(地域資源創成学)の学位を与えます。

**1. 人間性・社会性・国際性：**社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。

- (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
- (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
- (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。

**2. 主体的に学ぶ力：**自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。

**3. コミュニケーション能力：**相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。

- (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。

**4. 課題発見・解決力：**課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。

- (1) 情報リテラシー：情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
- (2) 問題解決力：人々と広く協働し、地域の資源や状況をよく理解・分析することで問題解決に導くことができる。

**5. 知識・技能：**学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。

- (1) 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有している。
- (2) 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し、複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。
- (3) 以下\*のいずれかの人材養成像に対応した、地域資源を活用し、新たな価値を創成する企画力・実践力を有している。

※60ページ「地域資源創成学部の養成する人材像」参照



地域理解実習(青島)



地域探索実習 I (日之影)



地域探索実習 II (都城)

# 地域資源創成学科

Department of Regional Innovation



経

営の視点をもって地域を持続的に発展させる方法を考え、実践できる人材を育てます。そのために、法学・経済学・社会学・農学・工学などの幅広い学びを提供して、より深く地域を理解し、革新的な価値を創出できる教育を行います。さらに実践力を鍛えるために、地域での実践を行う実習を数多く用意しています。

## 現場を経験する機会が多く 多角的視点を持てるように

地域資源創成学科

4年 古藤 凜 Rin Koto

大分県 大分雄城台高校出身

3年 上船 真希 Maki Uefune

鹿児島県 鹿児島第一高校出身

3年 田原 隆之介 Ryunosuke Tahara

福岡県 筑前高校出身

スポーツツーリズムに興味があり、将来はスポーツで地域を盛り上げる仕事に就ければと語る上船さん。理系が苦手でも理系に進むのはあきらめたものの、本学科で理系的な研究にも関わることが魅力だと田原さん。現在、海洋プラスチック汚染について研究しているゼミに入り、データ分析など理系寄りの作業もしているのだそう。古藤さんは、これから将来を考える人にとって、マーケティングや農学、食糧学、社会学など幅広い分野を学び、選択の幅を広げられることは、大きな魅力だと思います。3人とも、現場を経験しながら視野が広がり、多角的な視点で考えられるようになったといいます。社会に出て役立つ力がついたと自負しています。



### 地域資源創成学部 カリキュラム

※2023年度入学生のカリキュラムとなります。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
(前学期①・②)	(後学期③・④)	(前学期①・②)	(後学期③・④)	(前学期①・②)	(後学期③・④)	(前学期①・②)	(後学期③・④)
<b>専門科目</b> ●地域理解実習(1) ●地域探索実習Ⅰ(1) ●地域探索実習Ⅱ(1) ●地域産業創出概論(2) ●地域創出概論(2) ●企業マネジメント概論(2)		<b>コアアドバンスト科目</b> ●マネジメント実践Ⅰ(2) ●会計学Ⅱ(2) ●コミュニティビジネス論(2)		<b>コアアドバンスト科目</b> ●マネジメント実践Ⅱ(2) ●組織論Ⅱ(2) ●経営戦略論Ⅱ(2) ●マーケティング論Ⅲ(2) ●ベンチャービジネス論(2) ●貿易論(2)		<b>コアアドバンスト科目</b> ●マネジメント実践Ⅲ(2) ●企業経営分析(2) ●ビジネスプランニング(2) ●ICTと地域産業(2) ●買付社会学研究法(2) ●国際経営論(2) ●技術経営論(2)	
<b>基礎教育科目</b> ●地域学基礎(2) ●地域社会学概論(2) ●法学入門(2) ●地域資源論(1) ●簿記論(2) ●PBLⅠ(2)		<b>基礎教育科目</b> ●経営学概論(2) ●マーケティング論Ⅰ(2) ●会計学Ⅰ(2) ●プロジェクトマネジメント(1) ●企業家精神とイノベーション(1) ●地域経済学(2) ●マクロ経済学(2) ●ミクロ経済学(2)		<b>基礎教育科目</b> ●地域産業創出実践Ⅰ(2) ●食品学総論(2) ●風景と景観論(2) ●デザインプランニング(2) ●フードコンシャスネス論(2) ●生物科学実習(2) ●地域食文化論(2)		<b>基礎教育科目</b> ●地域産業創出実践Ⅱ(2) ●地域産業創出実践Ⅲ(2) ●作物栽培学(2) ●フードビジネスⅠ(2) ●観光と地域振興(2) ●地域商品プロデュース(2) ●地域栄養管理学(2)	
<b>基礎教育科目</b> ●コミュニケーション概論 ●数学基礎		<b>基礎教育科目</b> ●統計学基礎 ●社会調査法		<b>基礎教育科目</b> ●地域創出実践Ⅰ(2) ●地域創出実践Ⅱ(2) ●地域創出実践Ⅲ(2) ●地域産業政策論(2) ●環境科学概論(2) ●地域・防災まちづくり(2) ●コミュニティ政策論(2) ●フェイクニュース基礎Ⅰ(2) ●行政法(2)		<b>基礎教育科目</b> ●地域創出実践Ⅰ(2) ●地域創出実践Ⅱ(2) ●地域創出実践Ⅲ(2) ●まちなか再生論(2) ●農山村社会学(2) ●コミュニティ交通計画(2) ●自治体財政論(2) ●廃棄物処理・資源リサイクル論(2)	
<b>導入科目</b> ●英語a1 ●英語b1 ●情報・データリテラシー ●大学教育入門セミナー ●初修外国語(中国語・韓国語・仏語・独語)		<b>導入科目</b> ●英語a2 ●英語b2		<b>導入科目</b> ●特別英語Ⅰ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅰ(2) ●特別英語Ⅱ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅱ(2)		<b>導入科目</b> ●特別英語Ⅰ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅰ(2) ●特別英語Ⅱ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅱ(2)	
<b>課題発見科目</b> ●専門教育入門セミナー ●現代社会の課題(1科目を選択)		<b>課題発見科目</b> ●環境と生命		<b>課題発見科目</b> ●PBLⅡ(2) ●海外短期研修(2) ●国内インターンシップ(2)		<b>課題発見科目</b> ●地域活性化シミュレーション(2) ●交流マネジメント論(2) ●日本経済論(2) ●金融論(2)	
<b>学スキル発展科目</b> ▲外国語科目 ●ビジネス英語Ⅰ-Ⅰ ●ビジネス英語Ⅰ-2 ▲地域・学際系科目、自然科学系科目		<b>学スキル発展科目</b> ●ビジネス英語Ⅰ-Ⅰ ●ビジネス英語Ⅰ-2 ▲地域・学際系科目、自然科学系科目		<b>学スキル発展科目</b> ●特別英語Ⅰ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅰ(2) ●特別英語Ⅱ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅱ(2)		<b>学スキル発展科目</b> ●特別英語Ⅰ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅰ(2) ●特別英語Ⅱ(2) ●ビジネス英語Ⅱ-Ⅱ(2)	

卒業(就職)まで、学位取得

●必修科目 ▲選択必修科目 ■コース別必修科目

※半期の修得単位数上限は24単位  
※卒業要件単位には含むことはできない

## 地域資源創成学部の養成する人材像



### 企業マネジメントコース

国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリネージュ構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造(イノベーション)を引き起こし、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーを養成する。

### 地域産業創出コース

地域資源(農業・自然・文化等)の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる人材を養成する。

### 地域創造コース

中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を養成する。

## 未来につながる地域をつくらう!

地域資源創成学部では、地域が抱える諸課題を認識し、地域産業の活性化と地域振興を企画・実践できる素養を身につけた人材の育成を目的としています。

観光・地域経済・産業政策研究室では、地域資源の活用を意識した観光・地域経済の再生における、人々の行動や言語等のビッグデータを用いた研究を進めています。地域を様々な角度から可視化すると、改めて地域は可能性や魅力に満ちていることに気づかされます。本学部では、マネジメントをはじめ社会科学系、理系分野を幅広く学び、多様な学びから柔軟な思考力を育てます。さらには、学外での実践活動を通して、地域課題解決に向けた本質的な理解を重ねます。ぜひ、本学部の学びを通し、未来につながる大切な地域を創りましょう。



地域資源創成学科

教授 杉山 智行 Tomoyuki Sugiyama

宮崎大学のひと



ココに  
注目!

異分野融合研究に触れて、  
複眼的な視野を獲得しよう。

宮崎県の高千穂郷・椎葉山地域(高千穂町、五ヶ瀬町、日之影町、諸塚村、椎葉村)は、FAO(国連食糧農業機関)によって、世界農業遺産に認定されています。この地域に暮らす人びとの農林業を中心とした営みが世界的に価値がある、と認められたわけですが、「価値がある」とはどういうことでしょうか?

この問いに答えるためには、複眼的なものの見方が必要になってきます。少しでも具体的にいうと、この地域の価値を評価するために『人』と『自然』の関係を読み解いていく必要があります、それは一つの視点からのアプローチではなしえません。

現在、地域資源創成学部の教員を含む異なる分野の研究者などで

研究グループをつくって、この地域の実態を調査・研究しています。異分野融合の研究は、地域資源創成学部での教育にも反映されており、地域資源の「理解」や「活用」に必要な複眼的な視野を養うのに、大いに役立つことでしょう。



高千穂郷・椎葉山地域の風景

## 卒業後の進路

地方公務員(県庁、市町村役場)、国家公務員、IT業界、放送局、運輸業(航空業界、高速道路等)、電気・ガス・水道業、卸・小売業、製造業(食品・飲料、繊維、化学工業、自動車部品等)、団体職員、生活関連サービス業、大学職員、教育・学習支援業、金融業、不動産業、複合サービス業、専門技術サービス業(士業、コンサルタント業等)、建設業、進学など